

筑波大学プレ戦略イニシアティブ

スポーツ科学イノベーションフォーラム

2010年3月1日（月）・2日（火）

筑波大学会館・総合交流会館

主催：筑波大学大学院人間総合科学研究科

体育科学専攻・コーチング学専攻・スポーツ医学専攻

後援：筑波大学

<フォーラムについて>

この度、筑波大学プレ戦略イニシアティブ研究プロジェクトの一環として、「たくましい心を育むスポーツ科学イノベーションフォーラム」を開催する運びとなりました。武道や身体技法にみる「からだと心」の統合性に視点を当て、心とからだの関係性や身心統合の意義、更には、身体運動が心身に及ぼす統合的な効果やたくましい心身を育む運動プログラムのあり方などについて討論します。

武道学会の重鎮、百鬼史訓教授(東京農工大学・日本武道学会会長)、並びに村田直樹氏(講道館図書資料部部長・日本武道学会理事長)をお招きする一方、海外からも、韓国弓研究の権威、羅 永一教授(ソウル大学・スポーツ史)、子どもの心身問題の権威、Stuart Biddle 教授(ラフバラ大学・スポーツ心理学)、並びに運動と認知機能研究の第一人者、Arthur Kramer 教授(イリノイ大学・ベックマン研究所・認知心理学)、更に、新進気鋭の研究者として活躍される運動と抗加齢研究の権威、Wook Song 講師(ソウル大学・健康運動科学)及び高等教育機関におけるスポーツ教育研究の権威、Mike Waring 准教授(ラフバラ大学・スポーツ教育)らをお迎えし、活発な議論を展開します。

我々の身体は、分かつことのできない“心とからだ”の総体であり、精神的、社会的身体とも言われます。心とからだの相互協調関係に支えられた前向きな身体運動及び身体活動が人間のパフォーマンスや健康とどうかかわるのか。子どもや高齢者、そしてアスリートにおけるその実態を踏まえながら、21世紀の“社会に生きる体育・スポーツ科学”の課題と対処、そして更なるビジョンを少しでも明らかにできれば幸いです。

三寒四温で春の到来はまだ先ですが、皆様の白熱した議論によって、古くて新しい体育・スポーツの価値を再認識する契機となることを願っております。

敬具

筑波大学プレ戦略イニシアティブ

「たくましい心を育むスポーツ科学イノベーション」拠点代表
筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻 教授 征矢 英昭

<About the Forum>

We are pleased to be holding the first part of the Tsukuba University pre-planning Initiative Research Project: “The Innovative Sports Science Revitalizing Body and Mind Forum.” It is our hope to foster discussions about Budo, and other Body Work techniques, and the integration of body and mind, about the significance of the body–mind relationship, and about how exercise programs can foster the effects that human movement (exercise) has on the integration of mind and body and on the cultivation of a strong spirit.

We would like to welcome some of our guests: Fuminori Nakiri (Professor, Tokyo University of Agriculture and Technology; President of the Japanese Academy of Budo), Naoki Murata (Kodokan; Chairman of the Japanese Academy of Budo), and from overseas: Na Young-il (Seoul National University, Sports History), Stuart Biddle (Professor, Loughborough University, Sports Psychology), Arthur F. Kramer (University of Illinois, Psychology; Beckman Institute Human Perception and Performance group), Wook Song (Seoul National University, Health and Exercise Sciences), and Mike Waring (Loughborough University, Physical Education and Sports Science).

With so many leading figures in Budo and related areas of study meeting together, we look forward to many lively discussions. If, together, we can shed even a little light on our vision of ‘living physical education and sports science for society’ for the 21st century, this event will be a success indeed.

Hideaki Soya, Ph.D.

Professor

Project leader of the Pre-Initiative Research Project

Graduate School of Comprehensive Human Sciences

University of Tsukuba

〈 March 1, 2010 〉

オープニングセレモニー

10:00～10:30

司会：清水 諭・征矢英昭

- (1) 身心統合スポーツ科学 (Body and Mind Integrated Science: BAMIS) 研究に向けて
プロジェクトリーダー：征矢英昭 (筑波大学)
- (2) 筑波大学副学長 (研究担当)：赤平昌文教授
- (3) 体育科学専攻長：中込四郎教授

Symposium I：武道におけるからだところ

10:30～13:30

司会：酒井利信

- (1) 武道史における身心統合の鳥瞰図
酒井利信 (筑波大学准教授)
- (2) 武道教育におけるからだところ
村田直樹 (講道館図書資料部部長・日本武道学会理事長)
—— コーヒーブレイク ——
- (3) 韓国弓における身心統合
羅 永一 (ソウル大学教授・スポーツ史)
- (4) 武道実践現場におけるからだところ
齋藤 実 (専修大学准教授・剣道日本代表トレーニングコーチ)
- (5) 武道における科学研究の現状と身心統合への可能性
百鬼史訓 (東京農工大学教授・日本武道学会会長)

ランチタイム

Symposium II：身心統合科学の可能性

15:00～17:00

司会：清水諭・坂入洋右

- (1) 運動からからだをどのように考えるか？
清水 諭 (筑波大学准教授)
- (2) ボディワークの実践から
遠藤卓郎 (筑波大学教授)
- (3) ダンスパフォーマンスにおける身心の問題
平山素子 (筑波大学准教授)
- (4) 棒高跳びにおける身心統合
澤野大地 (アテネ・北京オリンピック棒高跳び日本代表)
- (5) 身心統合への心理学的アプローチ
坂入洋右 (筑波大学准教授)

パフォーマンスのひととき

17:00～17:30

- ・ 日本剣道形演舞

打太刀 剣道教士七段 酒井利信
仕太刀 剣道教士七段 鍋山隆弘

パーティー (交流会館多目的ホール)

17:30～20:00

司会：高木英樹

- ・ あいさつ：野村良和体育科学系長
- ・ あいさつ：阿江通良体育専門学群長

〈 March 2, 2010 〉

Symposium III : 脳とからだに及ぼす運動の効果

10:00～12:30

司会：征矢英昭（筑波大学教授）・西保 岳（筑波大学准教授）

(1) 青少年にみる身体活動と座位行動：最近の動向と将来の展望

スチュアート・ビドル（ラフバラ大学教授・スポーツ心理学）

(2) 高齢者の認知及び脳機能の向上

アーサー・クレマー（イリノイ大学教授・認知心理学）

(3) 筋と健康に与える運動の有益な効果

ウック・ソン（ソウル大学講師・健康運動科学）

同時通訳：

ランチタイム

Symposium IV : スポーツ教育におけるリノベーション

14:00～17:00

—大学体育モデルの再構築に関する実践的研究プロジェクト—

司会：本間三和子（筑波大学准教授）

【あいさつ】

(1) SPERT (Sports and Physical Education Renovation in Tsukuba) プロジェクトの意義

宮下 憲（筑波大学教授・体育センター長）

【キーノート】

(2) 高等教育機関における体育の展望と役割

マイク・ワーリング（ラフバラ大学准教授・スポーツ教育学）

—— コーヒーブレイク ——

【パネルディスカッション】

(3) 大学体育モデルの再構築を目指して

スピーカー

Group1：金谷麻理子（筑波大学講師）・松田裕雄（筑波大学講師）

Group2：鍋倉賢治（筑波大学准教授）・松元 剛（筑波大学准教授）

谷川 聡（筑波大学講師）・嵯峨 寿（筑波大学准教授）

Group3：大森 肇（筑波大学准教授）

コーディネーター 高木英樹（筑波大学准教授）

【総括】

(4) SPERT プロジェクトにおける今後の展望

山田幸雄（筑波大学教授）

Pre-Initiative Project, University of Tsukuba

Innovative Sports Science Forum

March 1-2, 2010

University of Tsukuba 30th Anniversary Hall

**Graduate School of Comprehensive Human Sciences
Doctoral Program in Physical Education, Health and Sport Sciences
Doctoral Program in Coaching Science
Doctoral Program in Sports Medicine**

University of Tsukuba

〈 **March 1, 2010** 〉

Opening Ceremony

10:00~10:30

MC: SHIMIZU Satoshi (Associate Professor, University of Tsukuba)

SOYA Hideaki (Professor, University of Tsukuba)

(1) Introducing of Body and Mind Integrated Science: BAMIS

Project Leader: SOYA Hideaki (Professor, University of Tsukuba)

(2) Address: AKAHIRA Masafumi (Vice-President, Professor, University of Tsukuba)

(3)Address: NAKAGOMI Shiro (Chair, Doctoral Program in Physical Education, Health and Sport Sciences, Professor, University of Tsukuba)

Symposium I : Body and Mind in Budo

10:30~13:30

Coordinator: SAKAI Toshinobu (Associate Professor, University of Tsukuba)

(1) An Overview of Body and Mind Integrated Thinking Through the Historical Study on Budo

SAKAI Toshinobu (Associate Professor, University of Tsukuba)

(2)The Body and the Mind in Budo Training

MURATA Naoki (Kodokan)

— Coffee Break —

(3) The Integration of Body and Mind in Korean Traditional Bow

Na Young-il (Professor, Seoul National University)

(4)Body and Mind in *Keiko* and *Shiai*

SAITO Makoto (Associate Professor, Senshu University)

(5) The Current Scientific Research in Budo and Possibility for BAMIS

NAKIRI Fuminori (Professor, Tokyo University of Agriculture and Technology)

Lunch

Symposium II : Introduction for Body and Mind Integrated Science(BAMIS)

15:00~17:00

Coordinator: SHIMIZU Satoshi, SAKAIRI Yosuke (Associate Professor, University of Tsukuba)

(1)Thinking Body through Motion and Emotion

SHIMIZU Satoshi (Associate Professor, University of Tsukuba)

(2)Practical Thinking from Bodywork

ENDO Takuro (Professor, University of Tsukuba)

(3)Thinking Body and Mind in Dancing Performance

HIRAYAMA Motoko (Associate Professor, University of Tsukuba)

(4)Problems of Body and Mind Integration in Pole Vault at Olympic Games

SAWANO Daichi (Japan National Team Pole Vault, Athens and Beijing Olympics)

(5)Psychological Approach for Body and Mind Integration

SAKAIRI Yosuke (Associate Professor, University of Tsukuba)

Party (Hall, University of Tsukuba 30th Anniversary Hall) 17:30~20:00

MC: TAKAGI Hideki (Associate Professor, University of Tsukuba)

(1) Address: NOMURA Yoshikazu

(Chair, Institute of Health and Sport Sciences, Professor, University of Tsukuba)

(2)Address: AE Michiyoshi

(Dean, School of Health and Physical Education, Professor, University of Tsukuba)

〈 **March 2, 2010** 〉

Symposium III : Exercise Effects on Brain and Brawn 10:00~12:30

Coordinator: SOYA Hideaki (Professor, University of Tsukuba)

NISHIYASU Takeshi (Associate Professor, University of Tsukuba)

(1) Physical Activity and Sedentary Behavior in Young People: Current Issues and Future Directions

Stuart BIDDLE (Professor, Loughborough University)

(2) Enhancing Cognitive and Brain Function

Arthur KRAMER (Professor, University of Illinois)

(3) Beneficial Effects of Exercise on Muscle and Health

Wook SONG (Assistant Professor, Seoul National University)

Symposium IV : Renovative Sports Education 14:00~17:00

Chair person: HOMMA Miwako(Associate Professor, University of Tsukuba)

Address: MIYASHITA Ken

(Chair, Sport and Physical Education Center, Professor, University of Tsukuba)

【Keynote Lecturer】

Vision and Mission of Physical Education in Higher Education Institutions

Mike WARING (Senior Lecturer, Loughborough University)

— Coffee Break —

【Panel Discussion】

Renovation of Physical Education Models in the TSUKUBA University

Speaker:

KANAYA Mariko (Lecturer, University of Tsukuba)

MATSUDA Yasuo (Lecturer, University of Tsukuba)

NABEKURA Yoshiharu (Associate Professor, University of Tsukuba)

MATSUMOTO Tsuyoshi (Associate Professor, University of Tsukuba)

TANIGAWA Satoshi (Lecturer, University of Tsukuba)

SAGA Hisashi (Associate Professor, University of Tsukuba)

OHMORI Hajime (Associate Professor, University of Tsukuba)

Coordinator: TAKAGI Hideki (Associate Professor, University of Tsukuba)

Closing: YAMADA Yukio (Professor, University of Tsukuba)

Symposium I : 武道におけるからだところ (Body and Mind in Budo)

4月より4年間にわたり「身心統合」をキーワードとして大きなプロジェクトが走り始めるが、今回の企画はそのキックオフ・フォーラムにあたるものとして位置づけられ、本シンポジウムはその中で特に武道を取り上げようというものである。

そもそも武道にとって身体と心の問題は、古くから非常に重視されてきた。身心統合は武道にとって解決すべき最重要課題であり、それゆえに近世までにこれが高度に理論化されてきた。このことから、武道学においては、特に人文科学の領域で常に中心的な研究課題として取り扱われてきており、さらに武道学以外の領域でも、哲学や思想学において、例えば湯浅泰雄や源了圓、高橋進といったこの領域を代表する一流の哲学者が、武道の身心関係論に興味をもちこれにアプローチをし、研究成果として穿った知見を報告している。

しかしこれを体育・スポーツ学において、総合的に研究テーマとして取り上げたことはない。

われわれは、武道から身心統合について、何かをつかみ、これを武道だけのこととしてではなく、スポーツ（身体運動）全体のこととして展開できないか、その可能性を探ろうというのが、本シンポジウムの趣旨である。

まずは武道を知ることからはじめたい。

従って、内容的には、最新の研究成果を発表するというのではなく、講演という形をとり、教科書的な内容にいくらか研究レベルの新しい知見を加味するといったレベルに設定する。

発表者は、以下の通りである。

(1) 武道史における身心統合の鳥瞰図

酒井 利信（筑波大学大学院准教授）

(2) 武道教育におけるからだところ

村田 直樹（講道館図書資料部長・日本武道学会理事長）

(3) 韓国弓における身心統合

羅 永一（ソウル大学）

(4) 武道実践現場におけるからだところ

齊藤 実（専修大学・剣道日本代表トレーニングコーチ）

(5) 武道における科学研究の現状と身心統合への可能性

百鬼 史訓（東京農工大学大学院教授・日本武道学会会長）

（コーディネーター：酒井 利信）

＜発表者紹介＞

酒井 利信：筑波大学大学院准教授

武道論を専門とし、特に刀剣思想についてこれを日本精神史の問題として位置づける研究を続けている。

剣道教士七段

羅 永一：ソウル大学教授、韓国体育史学会会長

上記の他にソウル大学師範大学副学長、体育教育科学科長などを歴任。

体育史を専門とし、特に武道に関する研究を行っている。

韓国弓道の実践家でもある。

村田 直樹：財団法人講道館図書資料部長、日本武道学会理事長

上記の他に、全日本柔道連盟評議員・指導者養成プロジェクト委員、鹿屋体育大学客員教授等を務める。

講道館柔道七段

齊藤 実：専修大学准教授、剣道日本代表トレーニングコーチ

スポーツ医学を専門とし、スポーツ・コンディショニングの研究を行っている。

2003年より全日本剣道連盟代表選手強化トレーニングコーチとなり、第12回世界剣道選手権大会（2003年、イギリス）と13回大会（2006年、台湾）に帯同。

剣道六段

百鬼 史訓：東京農工大学大学院教授、工学府副府長、日本武道学会会長

上記他に、全日本剣道連盟、東京学連剣友連合会等の要職にある。

バイオメカニクス・運動生理・スポーツ工学を専門とし、近年、剣道の運動メカニズムの追求と、安全性や緩衝性の高い剣道用具の開発に関する研究も行っている。

剣道教士七段

Symposium II : 身心統合科学の可能性

(Introduction for Body and Mind Integrated Science(BAMIS))

学校における体育は、その時代と国家において、社会的に要請される身体を構築するためのものである。健康なる身体を形成することを焦点化するだけでなく、戦時期には体力増強、兵士としての身体の準備を兼ねる場合もあった。明治期における体操科の成立以来、規律訓練的要素が強かったのは言うまでもない。

体育において、何を目的とし、それをどのように学ばせるのか？は大きな課題である。これまでも、体力論から楽しい体育論、そして1990年代以降、「体ほぐし」や「体づくり」へと変容してきた。特に、最新の指導要領では武道とダンスが必修化されるに至った。

しかしながら、「体ほぐし」や「体づくり」そして、武道やダンスが子どもたちにどのような影響を与えるのか？それはどのような原理とメカニズムによってなのか？教員は、こうした原理をどのように捉え、指導できるのか？について、体育教員、および体育や運動の研究者が実証的な知見を踏まえた広く深い議論が繰り返されているとは思えない。

ここで身心統合としたのは、体と心を一体のものとした「からだ」を前提としている。肉体と精神という二元論を前提としない捉え方の上で、運動がからだ（ところ）にどのような影響を及ぼすのかを究明したい。運動の経験者は、このようなからだの諸相を体験的に理解し、それをもとにして指導しているが、これらをどのように実証しながら、研究を進められるのか大きな課題である。

こうしたプロジェクトのスタートとして、いくつかの実践例をふまえ、運動が身心統合に寄与するそのメカニズムや原理に肉薄するためのヒントを皆さんと考えたい。それはまた体育や運動を研究する私たちにとって、「体育学」「体育科学」とは何かを改めて考えることにもなるだろう。発表者は、以下の通りである。

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| (1)運動からからだをどのように考えるか？ | 清水 諭 (筑波大学准教授) |
| (2)ボディワークの実践から | 遠藤卓郎 (筑波大学教授) |
| (3)ダンスパフォーマンスにおける身心の問題 | 平山素子 (筑波大学准教授) |
| (4)棒高跳びにおける身心統合 | |
| | 澤野大地 (アテネ・北京オリンピック棒高跳び日本代表) |
| (5)身心統合への心理学的アプローチ | 坂入洋右 (筑波大学准教授) |

(コーディネーター：清水 諭・坂入洋右)

＜発表者紹介＞

清水 諭：筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授。身体文化論、スポーツ社会学。主な著作に、“Synchronizing Body States: Training the Body at School and Performing the Body in the City.” In *This Sporting Life: Sports and Body Culture in Modern Japan* (Kelly WW. ed), Council on East Asian Studies, Yale University, 55-66, 2007. など。

遠藤卓郎：筑波大学大学院人間総合科学研究科教授。大学体育において「ボディワーク（内側からの体育）」、呼吸法や気功などを取り入れた授業を实践。主な著作に、「気功における身体：身体運動とメディア」*体育の科学*, 42(4): 258-263, 1992. 「体と気の世界探訪」『*知の銀河系*』第10巻, 勉誠出版, 39-68, 2002. 「ボディワークの授業から：内側からの体育に向けて」『*大学体育研究*』27: 11-30, 2005. 今回は、ボディワークの实践から、「からだ」と「こころ」と「自分」の関係について実技をしながら話します。

平山素子：筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授。コンテンポラリーダンサー、振付家。99年世界バレエ&モダンダンスコンクールにて金メダルとニジンスキー賞をダブル受賞。01年文化庁派遣在外研修員としてベルギーに留学。05年ニジンスキー振付初演版『*春の祭典*』の復元上演に生贄の乙女役で主演。06年ポリショイ劇場バレエ団にてソロ作品『*Revelation*』をS・ザハーロワに振付。新国立劇場からの委託作品も多く、07年「Life Casting-型取られる生命-」で朝日舞台芸術賞、08年『*春の祭典*』で芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。今回は、パフォーマンス時における身心の状態、集中力を高めるためのコンディショニングの方法など、ダンサーが得ている感覚を自らの経験を通してお話します。

澤野大地：アテネ・北京オリンピック棒高跳び日本代表。成田高校（インタハイ2連覇）、日本大学（日本選手権優勝2回）出身。日本記録を3度更新し、現在5m83の記録をもつ。2005年世界選手権（ヘルシンキ）において8位入賞、2006年アジア大会優勝。今回は、2007年世界選手権（大阪）と2008年北京オリンピックでの経験を踏まえて、身心統合の問題と跳躍の技術について問題提起します。

坂入洋右：筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授。スポーツ心理学、カウンセリング。研究テーマは、「身心のセルフ・コントロール」。主な著作に、「瞑想法の不安低減効果に関する健康心理学的研究」風間書房、1999。“Bodywork and Psychotherapy in the East”, Eburon Publishers, 2000. など。今回は、心の状態をモニタリングし、身体を活用して良好なコンディションに調整するセルフ・コントロールシステムを基礎として、身心統合科学の可能性を探ります。

Symposium III : 脳とからだに及ぼす運動の効果 (Exercise Effects on Brain and Brawn)

身体運動 (human movement)はからだと心の総体である心身が相互協調関係と統合的機能を背景とした人間の前向きな活動としてとらえられる。

生理学的に言い換えれば、筋と脳の相互協調関係においてあらゆる運動は起こる。脳はトップダウンとして筋に指令を送り動かす一方、活動する筋（腱、関節）はボトムアップとして脳に状況を伝える。結果的に脳は新たな筋の状態（疲労など）を察知し、内分泌や自律神経機能を通じて心臓や肝臓を刺激し、循環や代謝機能を調節することで、よりよい心身のバランスやパフォーマンスの維持・増進を実現させる。

したがって、運動を自発的に実践することは、心身の活性化や適応を促し、活動にみあった合理的心身を発達させることができる。

最近、そうした心身のバランスが崩壊し、元気を失う子どもが急増しているという。英国でも日本でも肥満やうつ病が増える一方、体力・学力の低下や意欲の低下が喫緊の課題として学術会議で報告されている（学術会議部外報告、2007）。

幸い、運動は豊かな環境で自発的に行うと脳（とりわけ海馬）の可塑性を高め、認知機能を高めることが多くの動物実験から示唆されている。ヒトでも、運動実践により認知機能が向上すること、更に、前頭前野の実行機能が高まることが報告され世界の注目を集めている。運動は条件さえ整えれば、脳も筋も同じもの(Brain and Brawn, one and the same)と言えそうである。

本シンポジウムでは、心もからだも急進的に発達する子どもの心身の問題を皮切りに、運動が心の座である脳とりわけ認知機能に及ぼす有益な効果、更に、筋の可塑性と健康に及ぼす有益な効果について最新の研究知見を紹介する。発表者は、以下の通りである。

(2) 青少年にみる身体活動と座位行動：最近の動向と将来の展望

スチュアート・ビドル（ラフバラ大学教授・スポーツ心理学）

(2) 高齢者の認知及び脳機能の向上

アーサー・クレマー（イリノイ大学教授・認知心理学）

(3) 筋と健康に与える運動の有益な効果

ウック・ソン（ソウル大学講師・健康運動科学）

（コーディネーター：征矢英昭・西保 岳）

<発表者紹介>

Dr. Stuart Biddle (ラフバラ大学、スポーツ心理学)

Prof. Biddle has been lecturing in higher education since 1979, during which time he gained a PhD in Psychology. He was Head of the School of Sport and Exercise Sciences 2001-2007. His main interests are in behavioural aspects of physical activity, sedentary behaviours and health. Initially focused on motivational and emotional aspects of physical activity, Stuart has broadened his approach to include studies of the behavioural epidemiology of sedentary behaviours and physical activity, including the investigation of the prevalence of such behaviours in young people, as well as when and where active and sedentary pursuits take place. A recent interest has been in positive youth development through golf, sparked by personal involvement in the sport.

Dr. Arthur Kramer (イリノイ大学、ベックマン研究所、認知心理学)

Prof. Kramer is a Professor in the University of Illinois, [Department of Psychology](#), the Campus [Neuroscience Program](#), and the [Institute of Aviation](#); and a full-time faculty member in the Beckman Institute [Human Perception and Performance](#) group. His fields of professional interest are cognitive neuroscience, cognitive and brain plasticity, aging, attention, perception and human factors. He is a well known leader for the researches on exercise and cognitive functions. He demonstrated for the first time that a prolonged exercise intervention with aerobic exercise enhances cognitive functions and activities of the prefrontal cortex in elderly peoples.

Dr. Wook Song (ソウル大学講師・健康運動科学)

Dr. Song has long been working in the area of muscle atrophy and oxidative stress including aging, hind limb unloading, and denervation using animal models in Texas. Since accepting the position of Assistant Professor at Seoul University, he has been trying to establish an experimental base in his department for his own research and education. His current works show that exercise would have beneficial effects on aging individuals through the development of their physical fitness. He is also interested in potential collaboration looking at brain-muscle crosstalk: some of neurotrophic factors would play an important role in brain-muscle cross-talk and considered as a myokine.

IV : スポーツ教育におけるリノベーション: 大学体育モデルの再構築に関する実践的研究プロジェクト (Renovative Sports Education)

社会構造の変化に伴って、大学を取り巻く環境は大きく変わりつつある。たとえば 18 歳人口の減少に伴う大学全入時代の到来。あるいは、行財政システム・スリム化の一環とされる国立大学の独立法人化。これ以外にも様々な要因が加わり、大学間の競争はますます激化している。さらに大学に求められる役割も従来のマスプロ教育を通じた「均質的で基礎学力に優れた人材の大量供給」から、カリキュラムの実質化による「創造的で即戦力となる人材供給」へと変化しつつある。「知の競争時代」と言われる今日、大学はまさに学生を教育する力（教育力）が問われている。ではその大学教育の中で、教養教育としての体育（大学体育）はどう位置づいていくべきだろうか？

かつて大学設置基準の大綱化の前夜（1991 年頃）、「大学体育」に関しても盛んに議論がなされたが、その本質はいかに職域としての「大学体育」を守るかが焦眉的であった。議論の末、多くの大学で「大学体育」は残ることになったが、15 年以上の年月を経て、今日の「知の競争時代」にあって「大学体育」が十分に役割を果たしてきたかは、未だ検証されていない。今後とも大学の「教育力」を担うセクションとして「大学体育」が存在し続けるためには、これまでの実績を客観的に評価・総括した上で、現代のニーズに適合した「大学体育」のモデルを再構築し、その効果を検証する必要があると思われる。

そこで、本プロジェクトは、体育センターの全教員が取り組み、4 ヶ年をかけて次の 3 つの項目について実践的な研究を行うものである。

- 1) 過去における「大学体育」の成果および問題点を総括し、「大学体育」モデルを再構築する際の基礎資料を得る。(Group1)
- 2) 1) の研究成果や先進事例に関する情報をもとに、現代のニーズに合った「大学体育」の基本理念の再構築に取り組み、カリキュラムの作成を行う。(Group2)
- 3) 再構築されたモデルに基づく「大学体育」の新カリキュラムに関して、その実践および客観的な証拠（エビデンス）による検証を行う。(Group3)

本フォーラムでは、2009 年度における SPERT プロジェクトの取り組み成果について中間の報告を行うと共に、先進的取り組み事例をラフバラ大学の Dr.Waring にご紹介いただく。

(1) SPERT (Sports and Physical Education Renovation in Tsukuba) プロジェクトの意義
宮下 憲 (筑波大学教授・体育センター長)

(2) Vision and Mission of Physical Education in Higher Education Institutions

Dr. Michael John Waring (Loughborough University)

座長：本間三和子 (筑波大学准教授)

(3) パネル・ディスカッション 「大学体育モデルの再構築を目指して」

スピーカー Group1：金谷麻理子・松田裕雄

Group2：鍋倉賢治・松元 剛・谷川 聡・嵯峨 寿

Group3 : 大森 肇

コーディネーター 高木英樹

(4) SPERT プロジェクトにおける今後の展望

山田幸雄 (筑波大学教授)

(コーディネーター : 高木英樹)

<発表者紹介>

Dr. Michael John Waring (Loughborough University)

Mike Waring is currently Senior Lecturer of Physical Education in the School of Sport and Exercise Sciences. Having been awarded a first class B.Ed. (Hons.) degree in physical education from Leeds Carnegie, he taught physical education in secondary schools before receiving an ESRC Scholarship and then a Departmental Scholarship to complete an MSc (Sports Science) and PhD respectively in the Department of PE, Sport Science and Recreational Management at Loughborough University. His research interests focus on three complementary areas. The first is 'teaching and learning', one element of which involves the critical debate and research on current and future directions of teaching and learning in physical education. The second area is the critique and development of grounded theory methodology. The third is the level and determinants of young peoples' involvement in physical activity.

宮下 憲：筑波大学教授・体育センター長。専門実技：陸上競技、研究領域：運動方法論

本間三和子：筑波大学准教授。専門実技。シンクロナイズド・スイミング、研究領域：コーチング学、ロサンゼルスオリンピック（1984年）シンクロ銅メダリスト

金谷麻理子：筑波大学講師。専門実技：体操競技、研究分野：運動方法論

松田裕雄：筑波大学講師。専門実技：バレーボール、研究分野：運動方法論及びスポーツビジネスマネジメント論、つくばユナイテッドVOLLEYBALL COO

鍋倉賢治：筑波大学准教授。専門実技：マラソン、研究分野：体力学

松元 剛：筑波大学准教授。専門実技：フラッグフットボール、研究分野：コーチング学

谷川 聡：筑波大学講師。専門実技：陸上競技（110m ハードル）、研究分野：コーチング学。シドニー・アテネの両オリンピックへ日本代表選手として出場

嵯峨 寿：筑波大学准教授。専門実技：シューティングスポーツ、研究分野：レジャー論

大森 肇：筑波大学准教授。専門実技：テニス、フィットネストレーニング、研究分野：運動生化学

高木英樹：筑波大学准教授。専門実技：水泳競技（水球）、研究分野：バイオメカニクス

山田幸雄：筑波大学教授。専門実技：テニス、研究分野：運動方法論